宗岡二中だより　５月号

令和６年5月1日

自ら学び考える生徒
学校教育目標：心豊かな優しい生徒
明るく元気な生徒

かばんはハンカチの上に置きなさい

校長　伊藤大輔

　標題はある友人に薦められ手にした本のタイトルです。作者の意図を探りたくなるタイトルです。ある生命保険会社のトップセールス営業マン川田　修（かわだ　おさむ）氏の手による作品です。今から十五年ほど前に話題になりました。作品の中で氏が挙げる営業の心得を以下に挙げます。

〇営業かばんの底は靴底と同じだ。よって訪問先では白いハンカチの上に置く。そしてお話が進む中でポケットのハンカチを取り出して『別のハンカチ』を持っていることをさりげなく知らせる。
〇お客様の家で用意している来客用靴べらは使わない。必ず自分の携帯用靴べらを使う。
〇約束の時間にほんの少し二分ほど遅れる場合であっても、必ずお詫びの電話を入れる。
〇服装は、白いシャツに紺かグレーのスーツ、時計は黒革ベルトに白フェイスを着用する。
〇出されたコーヒーの紙スティックゴミは必ずポケットに入れる。カップは下げやすいよう隅に寄せる。
〇入り口から最も遠いスペースに車を停める。
〇相手より長い時間お辞儀をする。

　これらはいずれもお客様を尊重するあらわれであると述べられています。その結果、契約の締結など営業を有利に進めるに至るのだそうです。ここまで読んで、皆さんはどう思われたでしょうか。驚きましたか。それとも違和感を覚えましたか。

　実は川田氏の文章から営業成績を上げたいという意図を私は微塵（みじん）も感じませんでした。むしろ彼は人と関わり合うことへの喜びを心の底から感じています。「相手を敬う」ことを起点に積み重ねた配慮、それが彼の生き方をつくり上げたという印象を持ちました。（この文面からは伝わりづらくて申し訳ありません。）

　この話を紹介したいと思った理由は本校生徒の発表にあります。先日の修了式で当時一年生（現二年生）の代表生徒が次のように話しました。

> 僕は最近クラス内で思いやりのない言葉を耳にすることが増えたと思います。いい捉え方をすると、どの小学校から来たかに関係なく緊張感なく言い合えるようになったということです。しかし思いやりのない言葉を言われてうれしい気持ちにはならないでしょう。そこで僕は一日一善を心がければいいと思います。いいことをすれば、それをされた人だけでなく自分までいい気持ちになります。一日一善が難し人は「いいとこさがし」をしましょう。「いいとこさがし」は人のいいところを見つけてそれを本人に伝えることで完了します。

　これを発表した生徒は相手を思いやることと、よい行いとを結びつけました。そして自分が幸せになるのだから「とにかく行動しよう」と働きかけました。その通りだと私は深くうなずきました。こんな風に考えてくれたことをうれしく思いました。意図や打算なく相手を思いやるその一心から起こす行動は人の心を打ちます。そして何よりも、その行動を起こした人を育てます。「いいとこさがし」も純粋に誰かを思いやることが起こす行動です。動いてみた結果、自分が恩恵を受ける行動です。

　結果が強く求められる社会にあっても人と人とが自然に心の底から相手を思い、ともに幸せになっていこうとする人生がある。そんな人としての在り方を川田氏は伝えています。お互いの幸せを願い、お互いを大切に扱い、お互いが高まる。そんなお互い様の実践が宗岡二中に広がることを期待します。「言葉・笑顔・挨拶」の輪を広げてほしいです。